

郷土を知る 昔々の そお市

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

第48回

立派な六地藏塔は
一見の価値あり!?
～内村堂の山石塔群～

末

吉町深川内村地区に平安中期頃から江戸時代のものや推定

される多数の石塔類が残されています。大型の六地藏四面梵字塔をはじめ、軽石製の五輪塔※1が約30基、板碑が約10数基確認できます。六地藏四面梵字塔以外は文字が刻まれていないか、風化により判読し難い状態で、由来などが不明な謎の石塔群です。

六地藏四面梵字塔は、中台、宝珠などが失われ、龕部と笠石が順序反対に組み合わせられるなど本来の姿は失われていますが、高さ約2.5mの堂々とした姿はひととき目を引きまします。幢身の四方には仏教における四門※2を表す5文字の梵字が良好に残ります。龕部に彫られた地藏は、欠損により3体のみ確認できますが、本来は6体の地藏が彫られており、人間の死後の行き先（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天道の六道）で苦しみを救うという意味が込められています。このような形態の六地藏塔は市内に現存する六地藏塔では唯一のものです。

現在、石塔が集められている場所一帯は、かつては丘陵で、石塔が点在していたと言われています。付近には「堂の山」「坊屋敷」といった地名が見えるこ

とから、かつて近所にお堂があったのではないかと推測され、石塔群もこのお堂と関係があるものと考えられます。

昭和50年代頃、丘が畑地に開墾された際に、点在する石塔が畑地の北端にまとめられ「内村堂の山石塔群」として末吉町（現曾於市）指定文化財に指定されましたが、見学しづらい立地であり、皆さんの目に触れる機会が少ない文化財の一つでした。

今回、土地所有者のご厚意により、四方から石塔群をじっくりと見学していただける場所への移設が実現しました。この機会にぜひ現地を見学していただき「内村堂の山石塔群」への興味を深めていただければと思います。

※1五輪塔…墓の一種。地・水・火・風・空の宇宙の構成要素を象

る五輪塔に納骨すること
で故人は極楽往生をとげ
るとされる。

※2四門……釈迦が東西南北の各城門から出かけた際に、それぞれの門で老人・病人・死者・修行者と出会い悟りを開いたと言われる。



移設された内村堂の山石塔群